医療法人善慈会　大分丘の上病院　広報誌

丘の上だより

VOL.51

令和７年
5月発行



法人理念

大分丘の上病院は、医療・保険・福祉を通して、人々の健康向上に寄与し、地域社会の発展に貢献する。

病院の基本方針

○思春期から老年期までの精神医療と心身医療に広く取り組みます。
○人権を尊重し、共に歩み、癒しをもたらし、再生を目指す医療を行います。
○科学的な治療を、各職種のチーム医療で誠実に提供します。

目次

Ⅰ　院長先生の発表　…ｐ２
Ⅱ　JAZZコンサート　…ｐ４
Ⅲ　上嶋先生開院の挨拶　…ｐ５
Ⅳ　学会発表　…ｐ６
Ⅴ　新人紹介　…ｐ７
Ⅵ　治療実績　…ｐ８

帆秋善生院長が講演をしました

令和６年度地域依存症研修会　2024年10月4日

「専門医療機関におけるアルコール依存症治療の実際とかかりつけ医等支援者に期待する役割」と題した講演を行いました。豊肥地域の医療機関に勤務する医師・看護師など35人を対象に、 Zoomを用いて大分丘の上病院から配信しました。

厚生労働省によれば、「健康を保てる節度ある適度な飲酒」は1日あたり純アルコール20g程度までとされています。これは以下のいずれか1種類が目安です。

・ビール中瓶1本（500ml）
・日本酒1合（180ml）
・焼酎0.6合（約110ml）
・ワイン2杯弱（200ml）
・ウイスキー・ダブル1杯（60ml）

アルコール依存症の診断には、診断基準やAUDITといったチェックテストが用いられます。

治療には、本人だけでなく家族も参加する「アルコール依存症リハビリテーションプログラム（ARP）」が重要です。

また、依存に至った背景や生い立ちを理解し支えることの意義、内科医が依存症に気づくポイント、専門医への紹介のコツなどについてもお話ししました。

大量飲酒は、酔って家を間違えたり飲酒運転をしてしまうなどの問題行動を引き起こし、依存症へと進行することがあります。勇気を出して、ぜひ治療を受けてほしいと思います。

「いのちの電話」研修会　2024年12月21日

電話相談員を対象に「精神疾患のある方からの相談対応」と題した講演を、市役所に併設された新しい中央公民館で行いました。57人が参加されました。

院長は平成2年から「いのちの電話」の活動に参加し、現在は理事として、運営や相談員の養成・指導に携わっています。これまで特に、自殺に関する相談への対応について長年取り組んできました。

今回は、最近特に増えている精神疾患や発達障害を抱える方からの電話相談への対応についてお話ししました。精神疾患の種類や症状により、会話の特徴や困難さが異なること、またそうした病気を抱える方が日常生活で感じている苦しみや将来への不安について説明し、長年の臨床経験から学んできた対応法を紹介しました。

令和６年度医療と福祉の相互理解に向けた研修　2025年1月23日

「精神疾患についての正しい理解」と題した講演を行いました。訪問看護ステーション、精神科医療機関、市町村や保健所などの行政機関の職員154人を対象に、コンパルホールで行いました。

院長は、精神疾患が前駆症状として身体症状や行動障害として現れた後、不安症状や幻覚・妄想といった精神病症状が表れる過程を説明しました。また、統合失調症、うつ病、双極性障害、発達障害の特徴、精神科で行われる治療内容とその効果、患者が抱える苦しみや悩みについて解説し、良い接し方についても紹介しました。

講演は「大変わかり易かった」と好評で、後日、配布しなかった資料についての希望があり、対応いたしました。

令和６年度若者自殺対策専門研修　2025年2月14日

「若者の自殺の理解と対応について」という題で講演を行いました。対象は、母子保健・児童福祉行政、小・中・高・大学・専門学校の先生、児童養護施設の職員の方々で、大分県こころとからだの相談センターにて実施し、同時Zoomによるオンライン配信も行われました。91人が参加されました。

この講演は、令和6年に小中高生の自殺者数が527人と過去最多を記録したという発表を受け、急遽依頼されたものです。

院長は長年にわたり「いのちの電話」で自殺相談の指導を担当しており、また当院では毎年約100人の自殺未遂者の治療を行っている実績から、今回の講師に指名されました。

従来は中高年層に多かった自殺ですが、近年、若年層の自殺が急増しています。現在、15歳から39歳までの年齢層における死因の第1位は自殺であり、がんで亡くなる若者の約3～7倍にも達しています。

若者の自殺は、早期にサインを察知し、声をかけ、一緒に解決策を考えることで救える可能性が十分にあります。講演では、自殺の心理や学校における必要な取り組みに加え、中学生の症例を紹介し、実際の治療内容についても説明しました。講演時間は2時間でしたが、休憩を挟まず一気に話しました。

現在、子どもたちの間では自殺のみならず、不登校や虐待も異常なほど増加しています。子どもたちを守るため、大人の手による支援がいま強く求められています。

丘の上JAZZコンサート

2025年4月、プロのJAZZギタリストの岩見淳三さんとボーカルのYAYOIさんを迎え、今年も丘の上JAZZコンサートが開催されました。
当日は綺麗な桜が咲いていてロケーションもばっちりでした。多くの患者さんやリワーク利用者の方が観覧されて岩見さん達と一緒に歌ったり、動いたりして、聴くだけではなく、一緒に参加するという形で楽しい時間があっという間に過ぎていきました。
また、特別ゲストして院長や奥様、副院長、当日結成の丘の上合唱団も歌や演奏を披露して楽しい時間を共に過ごすことができました。





私は司会を担当して緊張しましたが、岩見さん、YAYOIさんの演奏と歌を聴いたり、合唱団として参加をしたり、観客の皆さんが一緒に楽しんでいる様子を見て、たくさん元気をもらうことが出来ました。

看護師　あべ





上嶋先生が東京で開院されました

このたび　4月17日より「東京中央メンタルケアクリニック」を開院することとなりました。
患者さま一人ひとりに寄り添い温もりのある医療を提供できますよう誠心誠意努めてまいりたいと存じます。
今後とも皆様の変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

理事長　上嶋大樹

東京中央メンタルケアクリニック

〒162-0825
東京都新宿区神楽坂二丁目16番地2-2階
飯田橋駅B4b口より徒歩1分
TEL　080-1395-1029　HP　https://tcmc.jp/

上嶋先生退任の挨拶



私が最初にお邪魔したのは令和4年の4月ですから、かれこれ3年経ったわけです。
もう3年なのか、まだ3年なのか。
時計やカレンダーによって極めて客観的に測ることのできる時間でさえ、主観的にどうなのかといわれたら、えらく違いが出るわけです。
つらさというのは時間と比べるまでもなく客観的に測定困難なわけですから、当人がどのように感じているかは、さらに人それぞれといえます。
つらさがもつ、本質的な絶対性は医療者にとっては、ある種のよりどころであるような気がします。
科学とて絶対ではないという認識がだいぶ広がってきたように思えますが、そうなると何が正しいのかわからなくなり、不安がおそってきます。
その人がつらいと言っていたら、それ以上でも以下でもなく、それは絶対的にそうなのでしょう。「そんなことで」と周囲が思っても、そこに等身大のつらさがあるんだと思います。
なぜ治療をするんだと聞かれたら、「その人がつらいと言っているから」に尽きますし、今のところそれは聖域のように不可侵であるように思えます。
私に社会をかえる力はございませんが、せめて安心してつらいと言える診察室をつくりたいものです。
大変お世話になりました。
みなさんのつらさが少しでも軽くなりますように。そうでなくとも、つらさを口にできる場所がみつかりますように。

上嶋

長年のご支援に
感謝申し上げます



月に２回東京から当院の外来の応援に来られていた上嶋先生は帆秋院長先生の義理の息子さんです。開院にあたり、大分丘の上病院が支援を行い、関連医療機関となりました。当院に通院している患者さんが東京に転居しても通えるクリニックが出来ました。
４月、私が東京中央メンタルケアクリニック開院のお手伝いに行ってきました。平日は21時まで、土曜、日曜日も開院しており、働きながら通院される方が多く来院されていました。AIを活用した問診やカルテ入力、LINEによる呼び出しシステムやブザー通知を導入、事前決済など様々なシステムを導入されていました。お手伝いというより、むしろ学ばせていただくばかりでした。当院でも活用できるところはないか、これを機会に検討していこうと思いました。

事務　あらまき

学会発表をしました

第42回　大分県病院学会　in別府　2024年9月29日



「クロザピン治療にて劇的な症状改善をみせた症例」というタイトルで発表をさせて頂きました。事例のA氏は当初、統合失調感情障害として治療しており、幾種類もの抗精神病薬や気分安定薬を投与したものの改善されませんでした。破壊行為や興奮、躁状態、顕著な陽性症状が活発でした。

その後、治療抵抗性統合失調症と診断され、クロザピン治療を開始したことで劇的に症状が改善していきました。

クロザピンの効果で看護介入が進み、ストレングスモデルを活用し個人の強みを活かすように看護を行い、体調を崩すことなく退院することができたという、貴重な症例でした。今回の学会にあたりご協力いただいた関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

看護師　あかみね







今回の学会テーマは「為すものは常に成り、行うものは常に至る～新しい世界に挑戦しよう～」でした。
何事も実践は継続が大事で、たゆまぬ努力を続けていけば目標に到達するという意味です。
栄養士という仕事を始めて28年、今まで自分がどんな仕事をしてきたか、これからどのような仕事をするべきか、考えさせられる時間となりました。
特別講演「地域共生社会と病院の役割」の背景にある、人口減少高齢化、生産年齢人口の減少は、給食運営業務にも多大な影響を及ぼしています。人員不足対策のクックチル導入についての講演では、従来の給食システム継続が困難になりつつあると痛感しました。
今回の学会で習得した知識と技術に加え、仕事に対する熱意と継続力も忘れずに今後の業務に活かしていきたいです。

管理栄養士　きだ

少子高齢化が進む現在、入院中の治療だけでなく退院後のサポートまで支える医療を地域でどうやっておこなっていくか、普段なかなか聞くことのできないほかの病院の特徴や同職の方々の取り組みなど聞くことができ、とても新鮮でした。これからの時代多職種との連携はもちろん、地域との連携も重要だということが学べました。今回の学会で学んだことをこれからの日々の業務で取り入れていきたいです。

管理栄養士　かんだ

第49回　九州集団療法研究会　in 佐世保　2024年11月16日

私は韓国のリストカットの集団療法の分科会に出席させて頂きました。韓国では青少年の自傷行為が社会問題になっており、専門的な治療介入の必要性を感じ発足したとの事でした。かなり大変な活動だった様で、セッション中の自傷行為やフラッシュバック、スタッフに対しての不満からグループと病棟での対立を生む状況になり、何度も中断の危機があったそうです。試行錯誤しながら続けていくうちに成果もある中で、文献では自傷行為の集団療法は危険と言われており、実際にグループに関わったスタッフが自傷行為をしてしまう状況が起きている為、このままグループを存続して良いのか意見を頂きたいという場でもありました。参加者からは成果があるのであれば続けて欲しい事や労いの言葉があり、発表者の方が涙ぐむ姿もありました。当院でも思春期の方の入院もあり、自傷行為を目の当たりにすると自責の念や無力感を感じます。患者さんの自傷行為の裏にある思いや、自身としては一人で抱え込まずにスタッフ間での相談できる環境を作る事の大切さを改めて感じました。

看護師　きら





西海病院療養病棟師長さんの 活動についての分科会に出席させて頂きました。治療病棟に23年間勤められ、責任者としての葛藤や、円形脱毛症が多数できるほどの御苦労があったとのことでした。患者さんや病院の為のみならず、スタッフのことを第一に考えて病棟改革のために行動されているバイタリティー溢れる方でした。「当たり前のことを行う事で歯車を良くしていく」「とにかく共有していく」という言葉の通り、自らの行動でスタッフに信用されて病棟を変えておられました。人間力、行動力、言葉のひとつひとつが勉強になりました。

看護師　さほ

第76回　九州精神神経学会　in 鹿児島　2024年11月28日・29日



「クロザピン治療にて劇的に症状改善をみせた症例」について 発表させて頂きました。 この1年間対象者に対してどのような看護介入を行ったらよいかを、主治医や師長、担当看護師、協力者含めて多くのアドバイスを頂き実践してきました。その中で行動療法や個人SSTなどはとても有効で日々の行動の見直しや対人スキルを身につけることの大切さを改めて感じました。 また何より対象者の症状が改善しこれからの人生について前向きに捉えることができるようになったことが医療者側としても嬉しく思い看護の喜びを感じる事ができました。 これからも色々な症例に関わると思いますが今回学んだことをこれからの看護につなげていきたいと思います。

看護師　ながはま



新人自己紹介

しぶや（内科医師）
＊趣味＊
動画鑑賞
＊ストレス発散方法＊
たっぷり寝る
＊一言＊
少しでもお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い致します

さとう（3病棟　看護師）
＊趣味＊
音楽鑑賞（ROCK） ライブ、フェス参戦
＊ストレス発散方法＊
ドライブ、運転中大声で歌うこと
飼っているハムスターの世話。
＊一言＊
初心を忘れず頑張ります

おばた（2病棟　看護師）
＊趣味＊
アニメを見る事　パズル　手芸
＊ストレス発散方法＊
寝る事　猫と犬と過ごす事
＊一言＊
とろい私ですが、先輩方を見習って早く一人前になれるように頑張るのでどうぞよろしくお願い致します

さほ（2病棟 看護師）
＊趣味＊
スポーツなど体を動かすこと
＊ストレス発散方法＊
休日に友人と温泉にいくこと
＊一言＊
周りの方が優しくサポートしてくれすごく働きやすいです
これから知識をつけて日々頑張っていきます

おだ（3病棟 看護師）
＊趣味＊
買い物、流行の映画やドラマを観る事
＊ストレス発散方法＊
温泉やお風呂にゆっくりつかる
友達とご飯に行く
＊一言＊
不慣れで色々とご迷惑をおかけするかと思いますが、早く仕事をおぼえられるように頑張りたいです
宜しくお願い致します

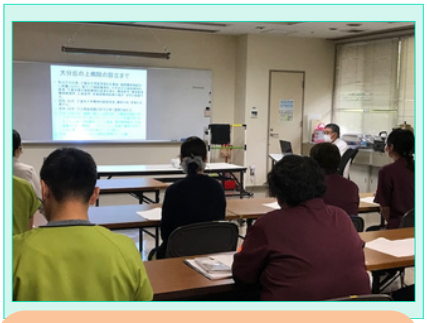
りゅうた（3病棟 看護助手）
＊趣味＊
泳ぐこと
＊ストレス発散方法＊
テレビ鑑賞、晩酌
＊一言＊
これからもがんばりますので、よろしくおねがいします

ひらお（3病棟 看護助手）
＊趣味＊
ドライブ
＊ストレス発散方法＊
身体を動かせづらいので、今は妻とドラマ鑑賞とアニメ鑑賞です
＊一言＊
骨を埋めるつもりで、頑張ります

わたなべ（外来 看護師）
＊趣味＊
ドラマ鑑賞（ゾンビ系が好きです）
＊ストレス発散方法＊
美味しい物を食べる
（辛い食べ物が好きです）
＊一言＊
早く業務になれるように頑張ります

おがた（2病棟　看護師）
＊趣味＊
縫い物
＊ストレス発散方法＊
おいしいものを食べる
＊一言＊
がんばります



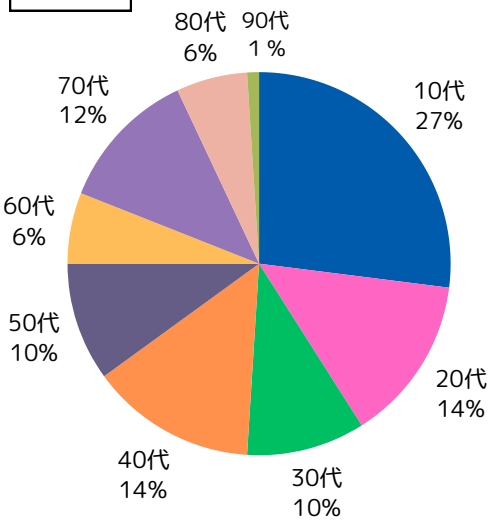

新人オリエンテーションの様子

治療実績（2024年度）

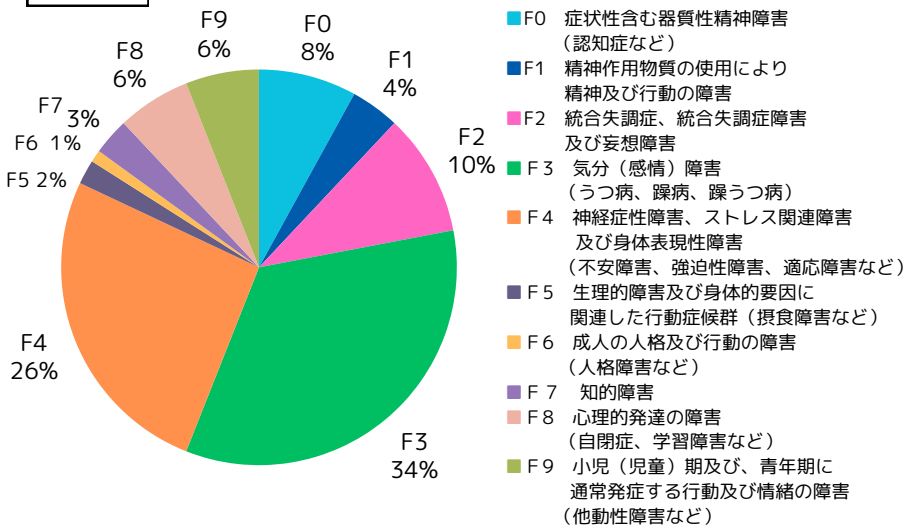
①新患

年間：471名（男性187名、女性284名）　※３ヶ月以上受診していない再診察の方も含む

年齢別



疾患別



新患の年齢は
10～20代まで197名（41%）、
30代を入れると245名（51%）
を占めます

10代の紹介が多いです

F3、F4の疾患で受診をする患者が全体の６割を占めます

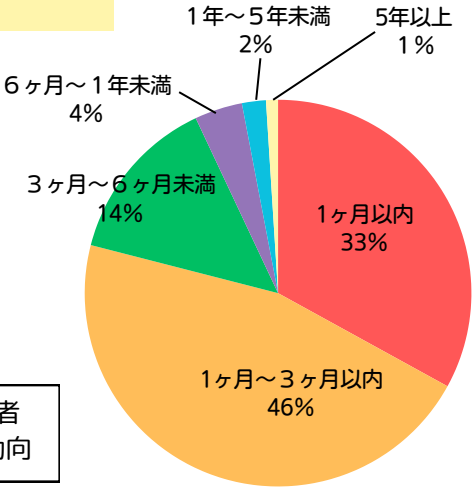
発達障害（ADHD、自閉症スペクトラム障害、学習障害）の受診が多くなっています

②年間入退院数、平均在院日数

年間入院数　：356名
年間退院数　：352名
平均在院日数：119.6日

352名中、３ヶ月以内に279名（79%）が退院し、６カ月以内に327名（93%）の患者さんが退院をしています

年間退院者
352名の動向



病院までのご案内

- 大分駅より
  車で約25分（米良バイパスが近道）
- 大分自動車道米良インターより
  車で約10分
- 豊肥本線「中判田駅」より
  車で約5分



丘の上だよりは次号からホームページ掲載だけとなります

発　行

医療法人　善慈会　大分丘の上病院
理事長・院長　帆秋　善生

〒879-7501　大分市大字竹中1403
TEL　097-597-3660　/　Fax　097-597-3657
ホームページアドレス
http://okanoue-hospital.com/